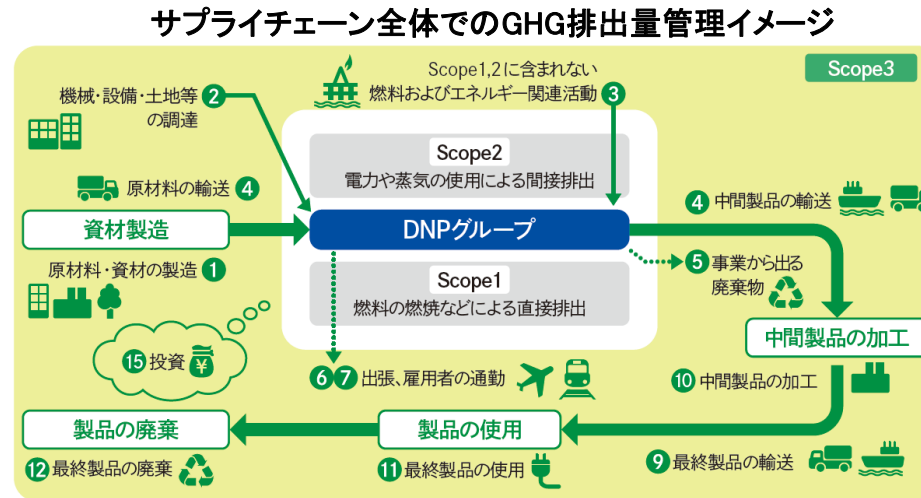


# 1

# 大日本印刷株式会社

## 各社の考え方

□ 算定を行う背景・目的



- 製品のライフサイクル全体でのGHG排出量の削減が重要と考え、自社製造段階だけでなく、間接的に排出するサプライチェーン全体でのGHG排出量 (Scope3) を算定し、削減対策を実施することで、2010年度から毎年削減している。
- この取り組みは事業活動全般の把握が重要となるため、2014年からは海外を含めたDNPグループ全体に算定範囲を拡大した。
- 算定結果をもとに、サプライチェーン全体での排出量削減に向けた取り組みを推進していく。

□ 算定結果の活用方法

- 海外を含めたDNPグループサプライチェーン全体の排出量について、一定の算定方法を確立することにより、経年的な排出量の増減を定量的に確認する。
- 多岐に渡る物品の取扱いに関連して、サプライチェーンを通じた排出量の算定方法を習得し、物量データ等をデータベース化する。
- サプライチェーンを通じた排出量集計を、細分化することで、製品群別、得意先別、製品別 (カーボン・フットプリント) のデータ集計を行い、得意先からの開示要求に対応する。

## 2

## 大日本印刷株式会社

## 各社の考え方

## □ 算定のメリット

- 上記活用方法を通じて、削減ポテンシャルの明確化、算定手法の洗練化、得意先の開示要求への対応等が可能になる。

## □ 社内の算定体制

- データを全社の関連部署、関連会社から集め、環境部門で算定を実施。
- データ収集元は、購買部門(カテゴリ1, 4)、経理部門(カテゴリ2)、環境部門(カテゴリ3, 4, 5)、労務部門(カテゴリ6, 7)、管理部門(カテゴリ9, 11, 12)、関連会社(カテゴリ15)である。

□ サプライチェーン  
排出量の削減に  
向けて

- グリーン購入の推進、環境配慮製品の開発・販売、また荷主としての輸送の効率化等を通じて削減を図っている。
- カテゴリ1「原材料・資材の調達」段階の排出量が全体の50%以上と多いため、引き続き削減に向けた取り組みを進めていく。

□ サプライチェーン  
排出量算定の課  
題

- DNPグループの製品は中間製品が多く、下流の販売した最終製品の使用段階(カテゴリ11)の算定が困難であるため、DNPグループが国内で製造したPETボトル(プリフォーム)使用時のエネルギー(ペットボトルに加工され、飲料として売られたものが冷却される際に使用されるエネルギー)のみを対象とした。
- 他の部品の加工・使用については、完成製品全体に占める重量が小さい、または加工・使用の際のエネルギー使用がないため、算定対象外とした。

## □ その他

- 算定の妥当性・透明性を担保するため、第三者検証を取得している。

## 3

## 大日本印刷株式会社

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	<ul style="list-style-type: none"> <li>原材料・資材購入量(重量、金額) (重量&gt;金額の優先順位で把握)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CFP基本・利用可能DB</li> <li>3EID (CFP&gt;3EIDで利用)</li> </ul>
カテゴリ2「資本財」	<ul style="list-style-type: none"> <li>土地・建物や機械器具の取得金額</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3EID</li> </ul>
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	<ul style="list-style-type: none"> <li>燃料、電気、蒸気のエネルギー使用量</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原単位DB*</li> <li>CFP基本DB(海外)</li> </ul>
カテゴリ4「輸送、配送(上流)」	<ul style="list-style-type: none"> <li>荷主輸送分のトンキロ、サプライヤ輸送分の推定トンキロ(※) (※積載量、積載率、輸送距離についてシナリオを設定し、購入重量に基づきトンキロを推計。購入重量が判らないものは、判明しているものの単位金額当たりの重量を利用し、購入金額より重量を推計。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CFP基本DB</li> </ul>
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物の種類別・処理方法別の重量</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原単位DB*</li> </ul>
カテゴリ6「出張」	<ul style="list-style-type: none"> <li>出張・近隣移動の推定旅費(※)、交通費支給額、宿泊日数 (※移動手段別に代表的経路をシナリオ設定し、利用回数から算出)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原単位DB*</li> </ul>
カテゴリ7「雇用者の通勤」	<ul style="list-style-type: none"> <li>通勤手段別の支給金額</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原単位DB*</li> </ul>
カテゴリ8「リース資産(上流)」	<ul style="list-style-type: none"> <li>リース資産で使用したエネルギー使用量(Scope1・2内で算定)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>—</li> </ul>
カテゴリ9「輸送、配送(下流)」	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙製印刷物等6製品種別の推定輸送トンキロ(※)、販売容量、販売額 (※CFP制度のPCRに基づき、算定対象種類毎にシナリオを設定)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CFP基本DB</li> </ul>
カテゴリ10「販売した製品の加工」	<ul style="list-style-type: none"> <li>販売した製品の加工なし、又は最終製品の構成割合が微小なため、算定対象外</li> </ul>	
カテゴリ11「販売した製品の使用」	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内におけるPET飲料の冷蔵の推定使用電力量(※PCRに基づき推定)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CFP基本DB</li> </ul>
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙製印刷物等6製品種別の処理方法別廃棄物排出量(※PCRに基づき推定)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CFP基本・利用可能DB</li> </ul>
カテゴリ13「リース資産(下流)」	<ul style="list-style-type: none"> <li>該当する活動がないため算定対象外</li> </ul>	
カテゴリ14「フランチャイズ」		
カテゴリ15「投資」	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連会社(持分法適用)のGHG排出量</li> </ul>	
「その他」	<ul style="list-style-type: none"> <li>オプションカテゴリであるため、算定に含めない</li> </ul>	

# 4

# 大日本印刷株式会社

## 算定結果

- 海外を含むDNPグループサプライチェーン全体のGHG排出量

